

以下は、「芦田恵之助先生 鈴木佑治先生 教壇記録と講話」に載っている「ブレームンのがくたい」の授業記録を元に、再現授業を組み立てるために作成した文書である。教科書を自前で準備したので、最初の方の区画する部分は省略した。その分、数分間時間短縮になっているはずである。また、一よむ、二とく等の文字、二とく六とくで取り扱われている内容をゴシックで表示した。

ブレームンのがくたい 第一次指導

「ブレームンのがくたい」のところを開いておいて下さい。

姿勢

用意ができたなら、こう、手をおろしておきましょう。そうすると、とつても姿勢がよくなるでしょう。そして、気持がいいでしょう。

さあ、始めましょうね。

今日一時間、「ブレームンのがくたい」のところをやります。

今日一時間お勉強すると、とつても面白くなりますよ。

区画

みなさんの本には、①から⑦まで番号がついていましたね。

七つに切りましたよ。七人に読んでもらいます。

あなたから。あなたが1，2はあなた。3はあなた。

大きい声で、ゆっくり読んで下さいね。そして、聞く人は、しつかり聞いて下さい。

一よむ

はい、本を置きなさい。とつてもうまい読みだったね。聞く人もとつても一所懸命だったね。さ、手をおろして、しつかり考えて下さいね。

二とく

題目「ブレームンのがくたい」と板書

楽隊は一人でできるか

ブレームンの楽隊の話だが、「がくたい」というのは、ひとりでできるかな。ひとりで楽隊できるだろうか。なんでもないでしょう。あなたは。

○ ひとりではできません
出来ません。たくさんの人数が集まってやるのが楽隊でしょう。

楽器の種類は？

楽器もみんな同じ楽器で楽隊になるだろうか。ラッパだったら、みんなラッパ持つておいたら、それで楽隊になるだろうか。あなたは。

○ みんなで、違う楽器を持たないと楽隊にならない

違う楽器でやらないと楽隊にならないね。たいこを持つたり、ふえを持つたり、ラッパを持つたり、違う楽器を持つて、一緒にやらないと楽隊にならないでしょう。

楽隊の人数

このブレームンの楽隊は、何人で作ったの。何匹の楽隊かな。あなたは。

○ 四人

四人楽隊だね。

四人の楽器は？

四匹とも何か楽器を持つておったかな？ 特別なもの、さあ、一つバイオリンをやるうとか、ラッパをやるうとか言つて、楽器を持つていたかな。あなたは。

○ 持つていません
持つていません。何が楽器です。このブレームンの楽隊の楽器は何？ あなたは。

○ 声
声です。鳴き声が楽器です。ねこが、「ニャーゴ」とやるのが楽器。にわとりは、「コケコッコー」とやるのが楽器。

最初に聞かせたのは誰？

さ、この四匹が楽隊をやるうということになって、一番先に、誰に聞かせたの。あなたは。

○ だろぼうです
だろぼうに聞かせました。

いい音楽だなあと聴いたか？

だろぼうたちは、「いい音楽だなあ。うまい

な、すばらしい音楽だなあ。」と聞いたか。あなたは。

○ あわてて逃げ出してしまいました。逃げだしてしまつた。びっくりして逃げ出してしまつた。みなさん音楽会に行つてね、音楽聞いて逃げだしたか? 「いい音楽だなあ。うまかつたなあ。」と聞くでしょう。ところが、この四匹の楽隊をやつたら、みな逃げ出してしまつた。おかしな楽隊だ、こりや、こういうお話です。

手引き

今、七人の人が読んでくれたでしょう。だから、こう切つて番号をつけましょう。

前に書いた直線を七つに切つて、その上に番号をつけられる。

誰のことを書いたか。1のところでは誰か。自分のことを話しておつた者があつたよ。何だつたか。あなたは。

○ にわとりが自分のことを話していたそう、にわとりでしたね。だからして、ここは、「にわとり」と書くのです。

板書、1へ「にわとり」

こういうふうには、一つずつ書くのですよ。わかつたでしょう。短く書きなさいよ。ここ

はにわとりのことだから、「にわとり」と書く。その次は何のことだろう。そしてその次は何だろう。本をよく読んで、わかつたら、それをノートに書きなさい。

三 よむ

四 かく

ブレーメンの

がくたい

- 1 にわとり
- 2 犬
- 3 ねこ
- 4 ろば
- 5 だろぼうたち
- 6 四ひき
- 7 だろぼうたち

さあ、鉛筆を帳面にはきんで、閉じなさい。そしたら、その上に本を開いたままこう置きなさい。(開いたままそれをふせるよう示す)

そうやって、手をおろしなさい。みんな見つかったでしょう。おっ、目をふらふらさせるなよ。

一ぺん声を出さないで読んでみましょうね。

五 よむ

指黙読

さあ、こんどは声を出して読みます。大きい声を出して読んで下さいよ。「にわとり」から、しつかりいきましよう。はい。

指音読

六 とく

似ていたところは？ 家がない

さあ、「にわとり」「犬」「ねこ」「ろば」今までは、別々の所におったでしょう。飼われていた人も違ったし、場所も違ったのね。今までは違ったが、こう集まってみたら、似たところがあったでしょう。にわとりも、犬も、ねこも、ろばも、何か似ておったでしょう。あなたは。

○ 家を逃げだした
そう、家を逃げ出したもの、家から追い出されたものばかり。みんな家のないものばかり。似ているね、これは。

似ていたところは？ おなかをすかせて

もう一つ似ているところがなかなかな。あなたは。

○ はい。あのー、みんなないたり……

うまいこと言ったなあ。みんなひどい目にあつて、ないていることが似ている。うまいこと言ったなあ。そしたら、もう一つ。

○ ？

これ、これ、これだ（おなかを指さして）。

これ、どうなの。あなたは。

○ 四ひきとも動物

うん……。おなか、これが今どうなの。あなた

なは。

○ おなかへつている。

ぺこぺこじゃないの。家をとびだしたり、追い出されたりして、何も食べる物がないからして、おなかへこぺこだろう。宿なしで、腹ぺこだ。

どこへ行くことにした？

それで、四匹で楽隊をやって、どこへ行こうということになったの。あなたは。

○ ブレーメン

ブレーメンという所へ行こう。そして楽隊をやっている。

ところが、家がなくちや困るだろう。はらぺこじや困るだろう。だから、ブレーメンに行つて、家を求めて、そして、楽隊をやつて、宿なしでないように、はらぺこでないようにしようと言ふことになったでしょう。

第一回公演は何番？

さあ、初めて楽隊をやつて聞かせたところ、何番？そんなことわかるさ。あなたは。

○ 五番です

かな？あなたは。

○ 六番です

六番（6に○をつける）ここで初めて楽隊をやつて聞かせた。

どろぼうはどこにいたか？

この初めて楽隊をやつて聞かせたとき、どろぼうたちは、どこにおつたの。あなたは。

○ 外に逃げ出してしまったの

楽隊やったときは、四匹は外におつたでしょう。楽隊やつたら、これ、変つてしまった。どろぼうたちは、外へ逃げ出してしまった。

四匹はどうしたか

四匹はどうしたの。あなたは。

○ 家の中

家の中へはいりました。えらい家、見つけたもんだな。家が欲しくてブレーメンに出かけたでしょう。

どろぼうはあきらめたか？

さあ、どろぼうたちは、それであきらめたかな。あなたは。

○ どろぼうのかしらが、あのう、子分に
見てこいと

言つて……

そうね、もう一度、様子を探らしたんだね。どろぼうのうちひとり家が家の中へはいつたでしょう。どろぼうたちは外で待つておつたでしょう。

かしらに何と報告したか

そしたら、家にはいつたひとりは、かしらに何だと言つたか。あなたは。

○ まものがいる

そう、分るか「まもの」って。おばけだよ。

(ゆっくり低い声で、薄気味わるいような声で、そして、急に)「うわーっ」というおばけだよ。(前の二、三人びっくりする。)

は、は、は、は、は。だから、ひとりには真青になつてかしらに報告した。

家にもどれるか

そんな時、家にもどれるか。もどれないから、みんな逃げて行ってしまった。そして、とつてもいい家をただでもらつてしまったというお話だね。

おもしろいところはないか？

これ、ずうつとこう読んでみて、おもしろいなあ、おもしろいお話だなあ、と思うところ、何番かな。どこが一番おもしろいかな。あなたは。

○ 六番

六番。これ、初めて楽隊をやつて聞かせたところ。ここがとつてもおもしろいところだね。

(6を黄チヨークで○をする。◎になる。)

あしたは、ここをやりまます。ここをお勉強したら、とつてもおもしろい話だなあ、おもしろ

ろいなあとということになりますよ。

あしたも、しっかりお勉強してみましようね。

時間があるから、もう一ぺん七人で読んでもらいます。あなたが一番、次はあなた二、次、三、四、五、あなたが六、そして、あなたが七と、あなたまでね。さ、それじゃ読んで下さい。

七よむ

七人で本文を読む

はい、本を置いて下さい。それじゃ、今日家に帰ったら、しっかり考え、考え、読んできて下さいね。

第一時板書事項

ブレイメンの

がくたい

にわとり

犬

ねこ

ろば

どろぼうたち

四ひき

どろぼうたち

7 | ⑥ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

ブレイメンのがくたい 第一次指導

六とく

姿勢
区画

一 よむ

二 とく

楽隊は一人でできるか
楽器の種類は？
楽隊の人数
四人の楽器は？
最初に聞かせたのは誰？
いい音楽だなあと聴いたか？
手引き

三 よむ

四 かく

五 よむ 指黙読 指音読

似ていたところは？ 家がない

似ていたところは？ おなかをすかせて

どこへ行くことにした？

第一回公演は何番？

どろぼうはどこにいたか？

四匹はどうしたか

どろぼうはあきらめたか？

かしらに何と報告したか

家にもどれるか

おもしろくといろは？

七 よむ

以下は、「芦田恵之助先生 鈴木佑治先生 教壇記録と講話」に載っている「ブレーメンのがくたい」の授業記録を元に、再現授業を組み立てるために作成した文書である。
一よむ、二とく等の文字、二とく六とくで取り扱われている内容をゴシックで表示した。

ブレーメンのがくたい 第二次指導

第二次指導（二時間目）

始業ブザー鳴る

さ、本を開いておいて下さい。それじゃ始めましょう

「ブレーメンのがくたい」のところを読んでみましたか。読んでみた人、手を挙げてみないさい。

全員挙手

はい。手をおろして下さい。おもしろかったですでしょう。きのう、あまりおもしろくないという手を挙げた人もあったけれど、読んでみたらどうだったか。おもしろかったか。おもしろかった人、手を挙げないさい。

昨日あまりおもしろくないと言った子

どもも、今日は全員挙手。

はい。よし、よし。また、七人で読んでもらいます。今日はあなたからだね。その次はどこへいくの？二、三、四、五であなたね。そして、次、六、七とあなたまたです。それじゃまた、大きい声で、ゆっくり読みましょうね。

一 よむ

二 とく

はい。本を置いて下さい。今日の七人の人も、大変立派に読みましたよ。

どろぼうがにげたわけ

さ、どろぼうたちは、あわてて逃げ出しましたね。どうして逃げ出したの。あなたは。

○ 動物たちが大声でさげんだから

動物たちが楽隊をやったのね。そしたら、どろぼうたちがびっくりして逃げ出しました。

動物たちは、どろぼうたちに、よい音楽を聞かせてやろうと思って、やったのかな。あなたは。

○ びっくりさせてやろうと思ってやったびっくりさせてやろうと思ってやったでしょう。そしたら、まんまとそれにひっかかってしまった。それで、青くなつて逃げ出しました。うまくいったな、こりやあ。

どろぼうが話していたこと 酒盛り

さ、その楽隊を聞くまでは、どろぼうたちは、何をやっておつたの。

テーブルの上には何があつたか。あなたは。

○ 盗んできた品物や何かを……

そう、盗んできた品物はわきに置きました。テーブルの上には、こう何か置いておつたでしょうが。あなたは。

○ ごちそうを置いていました

ごちそうをどっさり並べて、手に何を持っておつたと思う？あなたは。

○ ピストル

うん。……どろぼうだからな。……今から何をやるどころだったの。

○ 酒盛りをやるどころだった

酒盛りをやるどころだった。そしたら手に

何を持っておつたの。うん。みんなは酒盛りしたことはないから分らないか。

参観席、どつとわく。

○ コップやなに

コップやさかずきを持っておつたじやないか。そして、こうやろうとしたとき、大変な楽隊。

どろぼうが話していたこと 自慢話

さあ、どろぼうたちは、何かお話ししておつたらう。何を話しておつたの。あなたは。

○ 盗んできた品物をじまんしていた

どうだ、こんな立派なのを盗んできたんだぞ。君のより、ぼくはこんなに良い物をやつてきたんだよ。

動物たちの音楽

なんて、自慢話をしていたときに、大変なものが増えてきたもんだから、逃げ出してしまったのね。

手引き

動物たちが、びっくりさせてやろうと思つてやったことが、うまくあたりました。そこるところを書いてもらおうんですが、どこに書

いているかわかるか。何番か。

六番です、と勝手に言う子あり。

ちゃんと手を挙げて言いなさい。

○ 六番です

六番のところ、みんな書くのですよ。体を
まっすぐにして書きなさいね。さ、すぐに始
めなさい。

三 よむ

四 かく

「どろぼうたちを、びつ

くりさせてやろう。」

ろぼの上に犬、犬の
上にねこ、ねこの上に

にわとりが乗る

と、家の中へ向かって、

四ひきは、大声で、いつせい

にどなりました。

「ヒン、ワン、ニャーゴ、

コケコッコー！」

どろぼうたちは

大あわて、「おぼけが

出た！」と、ごちそう

も、品物もそのまま

にして、みんなにげ

だしてしまいました。

約百八十字

そこまでにして下さい。お帳面を閉じて下
さい。また、一度、声を出さないで読んでも
らいます。

五 よむ

指黙読。

昨日のように、しっかりと声でやり、ましようね。

指音読。

うまいね。あんまりうまいから、もう一度やるかな。

指音読二回

はい。よかったな。

○ このとき、子どもの中から質問が出る。先生、「どろぼうたちをびつくりさせてやろう。」というところには丸をつけて、「ヒン、ワン、ニヤーゴ、コケコッコー！」の下には、どうしてあんなしるしをつけるの。うん、これね。これはあとでお話してあげるよ。お勉強が終ってからな。よし。

六 とく

大きく二区分

いいか。さ、ここからここまで（全文のこ）みなさんの番号つけた6のところですね。これを二つに切ることができさ。どこで切

ったらいいか。こんなことなんでもないさ。あなたは。

○ はい、「大声でいつせいにどなりました。」のところで切ったらよいと思います。

うん……。おしかったなあ。あなたは。

○ 「どろぼうたちは」のところ

そのどつち？前か？

○ はい、前

そう、そう、そう。ここです。ここで二つに切ればいいですね。（黄色で縦に線を引いて区分する。）

二区分の前半 どうぶつたち

こっちは（前半）誰のこと？あなたは。

○ 動物たちのことです

動物たちの、これは、四匹の動物たちのことでしょう。（四匹に、傍点をつけ）

二区分の後半 どろぼう

それじゃ、こっちは（後半の文）誰のことか。あなたは。

○ どろぼう

そう、どろぼうたちのことです。（どろぼうに、傍点をつける。）

前半を更に二区分

さあ、この四匹の動物のところを、二つに

切ってみなさい。これ、ちゃんと切れたら、先生、その人におじぎします。しつかり考えなさい。

子どもたち、目をさらのようにして見ながら、真剣に考えている。

動物たちは二つのことをしたんだよ。あなたは。

○ 「ろばの上に犬」というところで切るここか……。おしかったなあ。あなたは。

○ 「にわとりが乗ると」というところ

(と、の下を指さし) ここか? (子ども、うなづく) えらいところで切ったが、おしかったなあ。えらいおしかったなあ。もう少しのところ、先生、おじぎをするところでした。ちよつとのととと、おじぎできない。ほんのちよつとのとととだよ。(指先でその「ちよつと」を表現される。)

よそのところへいっちゃだめだよ。このへんだよ。あなたは。

○ 四ひきは、いっせいにどなりました。だめだめ。そんなにいっっちゃだめだよ。この人、ここでちよつとのとととでおしかったろう。そしたら、あなたは。

○ 「にわとりが乗ると」の前ここで切るの。(と、の前を指さす。)

子どもうなづく。師、その子にゆつくり、丁寧におじぎされる。参観席、みんなにこにこして見る。

ここで切らなくちやならない。そうすると、文章を直さなくちやならん。「ました。」「ました。」と書いているな。それに、「乗る。」じやおかしいじゃないの。にわとりが……。分るでしょう。あなたは。

○ 乗りました

そう、「乗りました。」だね。えらい三年生だなこりやあ。(「る」を斜線で消し、傍に「りました。」「と加筆。)) たいしたものだよ、こりやあ。ついでに、「と」のところも直しなさい。(「と」の傍をトントントンと軽くたたき、三音の語であることを暗示。) あなたは。

○ そして

うん、「そして」。うまい。(「と」を消して、傍に「そして」と加筆) とつてもうまいなあ、こりやあ。さあ、それじゃ、ここはね、ここまで一つだよ。うまいところ切ってくれたね。あなたのおかげだよ。あなたの手柄だよ。あなたが先に、あれ言ってくれたから、この人ぴたつときたのね。このくらいのところだったね。おしかったなあ。

前半の前…動物たちがしたこと…乗って

さ、ここまでは、四匹何をしたところ？
あなたは。

○ びっくりさせてやろうと
びっくりさせてやろうとして、どうしたところ？あなたは。

○ ろばの上に犬、犬の上にねこ、ねこの上にわとりが重なったところ。

まとめて言ったら？あなたは。

○ 乗りました

そう、ここは乗ったところ。ここは乗ったところですよ。

前半の後…動物たちがしたこと…どなり

そしたら、こっちは何したところなの。あなたは。

○ 向って

向って何したところ？

○ 大声でどなりました

大声でどなったところね。「どなる」の語に傍点をつける。どなるって分るか。これ以上大きな声が出ないというような大きい声でさげぶことだよ。「大声」の語に傍線を二本つける。ここは、どなったところですね。

後半…どろぼうがしたこと…逃げた

そしたら、ここは（後半）どろぼうたち何したところ？なんでもないさ。あなたは。

○ 逃げたところ

そう逃げたところ。「にげ」に傍点をつける。さあ、どろぼうたちは、逃げましたよ。

後半…逃げたわけ

逃げたのは、動物たちが、どうしたから逃げたのかな。動物たちが乗ったから逃げたのかな。それとも、どなったから逃げたのかな。どっち？あなたは。

○ どなったからです

どなったからびっくりした。この中のどれでびっくりしたの。あなたは。

○ 「ヒン、ワン、ニャーゴ、コケコッコ

ー！」

その何にびっくりしたの。あなたは。

○ はい、声です

声。大きな声でびっくりした。（大声に傍線を二本つける）

一番先に声を出したのは？

○ 一番先に声を出したのは誰だ。あなたは。ろば

と思う人。(大部分の子ども挙手) じゃ二番は？あなた。

○ 犬
と思う人。(大部分の子ども挙手) 多分そうくるだろうと思った。一番先に声を出したのは誰だ。あなたは。

○ みんな
みんなだ、みんなだよ。「みんないつせいに」というのは、そういうことだよ。みんな、これ一番だよ。

みんな一斉にしたから楽隊

そうでなくちや楽隊にならないか。こつちでたいこをたたく。それが終わったら、こんどはラツパをならす、それじゃ楽隊にならないのだよ。ラツパもたいこも、ハーモニカもいっしょに「じゃーん」とやるから、楽隊になるだろう。これ、いっしょだよ。みんな一番だよ。

ろばはあらん限りの声を出して「ヒーーン」とやる。犬も一緒に「ワーン」とやる。ねこも一緒に「ニャーゴ」とやる。にわとりは、「コケッコー」とやる。これ、一緒だよ。どんな声になる？とんでもない声になるだろう。これでは、腰がぬけるほどびっくりするさ。

それ、一匹ずつだったらわかる。「ヒーーン」、あれろばだな。「ワーン」、これ犬だな。「ニャーゴ」、ねこだな、と分るけれども、一緒だもの。一緒に「ぐわーん」とやるから、さあ、びっくりして、逃げ出した。

前半の前

それじゃ、こつちの方は、びっくりさせることができなかつたろうか。家の中と外で、明るいのはどつち。あなたは。

○ 家の中

家の中だろう。外は暗いんだろう。明るいところから、暗いところがよく見えるか。

○ 見えません

見えないだろう。ひよいと見たら、なんだかわからないが、ぐーっと高いものがまどから見えたよ。なんだろうかな。ろばの上に犬、犬の上からねこ、ねこの上にわとりが乗っているから、えーらいぐーっと長いものがね。なんだかえたいのわからないものが、一緒に「わーっ」とやったもの、こりや驚いたさ。さあ、こつちは一番おどろき、こつちは二番おどろき。さあ逃げ出したよ。

どろぼうなんて

どろぼうなんて、とつても、人間としてだめな人間なんだね。とつてもあぶないね。見つかって、つかまったりしては大変でしょう。それなのに、どうしてどろぼうなんかしているんだらう。そんな危いことを、なんでやっているの。

○ 品物を盗んで

そう、品物欲しいから、どろぼうするんじゃないか。(「品物」に傍点) うまいごちそう食べたいから、どろぼうするんじゃないか。そのごちそうも、せっかく、危い目をして盗んできた品物もそのままにして、「おぼけだ!」と言って逃げ出したもの。こりや、おかしい話だらう。

このところ、「。」(まる)をつけないで、これ「!」つけているのは、えらい力を入れて言うところだよ。「おぼけが出た!」(と力を入れて言ってみせ)それをね、「おぼけが出た。」(弱々しく言ってみせて)なんて言っちゃだめだよ。だから、これをつけたんだよ。分つたか。いいか。(前に質問した子、うなずく。) さあ、かねが鳴ったけれども、しっかり読んでおしまいにしましょう。

七よむ

板書を一齐に指音読する
おかしいどろぼうたちだな、こりやあ。それじゃ、おしまい。

静かにおじぎされる

第二時板書事項

「どろぼうたちを、びっくりさせてやろう。」

ろばの上に犬、犬の上
にねこ、ねこの上に

にわとりが乗る。りました。

そして、家の中へ向かって、

四ひきは、大声で、いっせいにどなりました。

「ピン、ワン、ニャーゴ、コケコッコー!」

どろぼうたちは、

大あわて、「おぼけが出た!」と、ごちそう

も品物もそのまま

にして、みんなにげだしてしまいました。